

### feature interview

# DJ HAZIME

ハーレムマンズリー通算100号の表紙を飾るのは、この男しかないでしょう！  
土曜日の顔、DJ HAZIMEのヴィジョンに注目！

#### ■2005年はどんな1年でしたか？

去年リリースしたアルバムは、DJ HAZIMEの知名度を上げたかったというのもあったし、今までやったことのないことをやることによって改めて自分の未知の領域に踏み込んだものだったんです。アルバムのセールスはもちろんだけど、一般層にオレの存在を知らしめるということが目標の一つでもあったし。その結果、クラブに還元できればいいなということで。その続きとして、2005年をクラブプレイに専念するということは、去年の段階で決めてたんです。だから、アルバムを買った人とか初めてオレを知った人とかがHARLEMや地方のクラブに来てくれるかってのは気になりましたね。

HARLEMでは少し分りにくかったけど、地方に関しては今までとリアクションが確実に違ってきましたね。いい意味でも悪い意味でも。お客さんは深く入ってるけど、DJブースをガン見してるだけとか。それはアーティストとして見られてるってことだと思うけど、2005年はもう一回リセットして新しいDJ HAZIMEとしてクラブプレイに専念しようっていう年だったと思う。

#### ■"NO DOUBT"に関しては、この1年を振り返ってどうでしたか？

色んなチャレンジをしていい音楽を提供しているっていう姿勢は、オレもTAIKI君も変わってなかったんだけど、去年より選曲的には掘り下げられたかなってのはあって、実際それが続けられてることでお客さんが成熟してきて、何をやるのも割とやりやすい状況になって来てるのかなって感じるよね。凄いい新譜でも反応はあるし、HOUSEとかをかけても踊ってくれるし。前だったら、オレもビビって出来なかったことだけど、成熟の度合いを感じながらプレイ出来るから、空想的には凄いい空気が作れてるなってのは感じますね。

#### ■その中で自己評価は？

点数は付けられないけど、手抜きはしてない。やりたいこととフロアの実際のリアクションとのギャップを少し感じたかなという意味で、100点ではないかな。だけど、先の見える100点未満の点数。だから今、色々試したりしてますね。TAIKI君とも波長が合うところでHOUSEかけたりOLD-SCHOOLの突っ込んだことこいてみたりして。色んな曲を試してみたいっていうのがアルバムを作り終わって、クラブプレイに専念するようになって出てきましたね。

オレも今までかけたことのないHOUSEとか、色んなジャンルをかけるスタイルを出してみ、それが100%マッチしてたかっていうと微妙だけど、"NO DOUBT"自体の活性化にはなったかなと思って。単純に音楽として聴かせたい、楽しんで欲しいっていう気持ちがあるから。だから、100点じゃないけど、来年100点になればいいなっていう位の点数だから、クラブプレイをよく頑張りました、位の評価ですかね(笑)。

#### ■"NO DOUBT"にゲストとして来日した海外DJとの共演や、共演しなかったけれど対談をした海外DJなど、色々なDJとお話しする機会があったと思いますが、彼等から何か刺激は受けましたか？

刺激も受けられるけど、自信を付けることが多かったかな。考え方とかやってることで「やっぱりコイツらすげーな」って思うことはなかった。だけど、DJ CAMILOがDJをビジネスとして考えてるのが「やっぱり本人が考えるべきだよな」っていうふうな共感できましたね。DJをビジネスとして続けてく、尚且つ拡大させていくっていう意味で「この人はそういうプラン持ってやってるんだな」って思いましたね。アメリカにおけるDJの認知度やマーケットを日本のそれと比べちゃうと、規模も人口も違うから一概にCAMILOが考えてるプランをオレが実践して上手くいっていったら、そんなわけはないだろうけど、やっぱりDJも考えなきゃダメだかってのは思ってた。

あとはSWIZZ BEATZかな(笑)。天才というか、感覚クンってのは努力じゃないんだってのを感じましたね。DJはホントに酷かったけど、作曲りに

対する理論を持ってなさそうでは一番持っているタイプだよ。技術云々じゃなくて、割とハートミュージックな感じで作ってるんだな、ってのが解ったかな。クラブにしろラジオにしろMIX TAPEにしろ、ノリ一発が一番面白いんだなって再確認できた。MTRで凄く作り込んでるものより、部分部分で失敗してたり針飛びしちゃってるようなMIX TAPEの方が面白いし長く聴けるのは事実だし。そういう意味で、SWIZZの一発のアイデアみたいなのは凄いいと思った。

それから、DJ SCRATCHがアナログにこだわってるのも、単に同意できる意見であって刺激ではないしね。今、Scratch Liveがもてはやされてるけど、それに関してはオレは全く否定しないしね。その人が上手く使えれば、アナログだろうがCDJだろうがScratch Liveだろうが何でも良くって、あれを使ってるからダサいとかそういうのは全く無い。オレは、レコードを買うのも好きだし、触るのめかけののも好きだから、パソコンでデータとして字を見ながらやってるのはオレのスタイルには合わないなって思って、今は導入しないだけ。ただ、話を聞いていると、便利そうだなって思うし「へえ〜」とも思うけど、それが刺激かっていってたらそうでもないかな。「オレも頑張りなきゃ」って思わせることが、オレにとっての刺激なのね。だから、JAY-Zの"FADE TO BLACK"のDVDを見て「オレも曲作り頑張りなかな」、「寝てる時間とか考えずにもっとアグレッシブにやろうかな」とか、NYのクラブに行くと誰かのDJを聞いて「早く日本に帰ってDJやりたい」って思うのが刺激だと思う。SWIZZと話して実際に曲を作りたいなって、CAMILOと話してDJのビジネスの事とか考えたいなって、そういう意味では、刺激を受けたのはこの二人だけかな。

#### ■ところで、4年連続大晦日のカウントダウンをHAZIMEさんにお願ひしているわけですが、今年のカウントダウンに向けての意気込みは？

節目に色々やらせてもらってるのは、たまたまだったりオレのリリースのタイミングだったりというのがあるけど、ただ続けてるだけだったらそうならないだろうなと思うのは事実だよ。それは自分の自信だと思ってる、HARLEMからカウントダウンを連続で頼まれるってのもお店の中での評価だと思ってる。それを築き上げてきたのは自分のしてきたことだとして自信も持てるし。責任を感じる部分もあるし、HARLEMで育ててきた感っていうのもあるかな。この箱で育ててきた感じ。だからもちろん他のクラブのカウントダウンを頼まれてやるのとHARLEMのカウントダウンを頼まれてやるのでは、モチベーションが違うと思う。それは帯でやってる箱に対する気持ちとか情熱の問題だから、それを持ってるのはいいと思います。毎年カウントダウンを頼まれることは、どんどん自信にもなるし、数年前よりも今年の方が自分の中では自信はついてるわけだから「オレ頑張りな」って感じ(笑)。だから、今年もカウントダウンがオレなんであれば、もちろん来年もキープしなきゃいけないと思うし、そこで満足しちゃダメだとも思う。あんまり今の状況に満足せずに頑張りたいたいかな。

#### ■東京の若手DJたちを見て、どう思いますか？

オレも30代だし、今HARLEMで火・金・土曜日の看板背負ってやってるDJで20代が居ないってのは問題だとは思って。もちろん、経験が凄く重要なんだけど、お客さんは20代が割と多いのに、DJしているのは30代ばかりってのは、現在進行形の音楽としてどうなのかなってのがあって。ビジョンとか目標を持ってやれてないのかもしれないけど、一言言うなら「ガッツが無い」だね。クラブからDJを頼まれてるのは仕事としてであって趣味の延長じゃないのに、「DJだけで食えればいかな」っていう目標で満足してんじゃないかなって感じる時があるよね。それがその人の目標なんであればそれでもいいと思うけど、もっとあるでしょ？って思うんだよね。オレはそれだけじゃ満足できないからアルバム出したり色々やってもっと掘り込んでこうって考えてるし。



そういう意味では東京の若手に比べて、大阪の若手DJにはガッツがあるんだよね。自分たちのビジョンがちゃんとあって、それを実行していった結果、人が集まるイベントが出来るようになってるし、自信も持っているんだよね。だから、年は下でも対等に話せるし、みんな自信を持ってから「オレたちはこういう考え方でやってます」って主張があるんだよね。「東京はどうですか？」ってのは絶対に聞いてこないし、自分たちの理想のパーティーを自分たちがやって、実際お客さんも入っていい雰囲気も作れるから、そういうことを気にする必要がないだろうね。大阪の若手が実際に出来るんだから、やっぱりビジョンと行動力の問題なんだと思うよ。例えば、DJで稼いで貯まった金で何か大きなことする、位まで考えてるんだと思う。そういうビジョンとかイメージを持って行動することが大事なのに、そこが足りな過ぎるかな。

#### ■では、HAZIMEさんのビジョンは？

渋谷FC設立を考えてます(笑)。国立競技場をホームにして、練習場は代々木公園の中のグラウンド(笑)。最寄り駅が代々木公園と代々木八幡なんです。そこはオレの小学校のすぐ近くなんで、代々木公園、代々木八幡から練習場まで続く道にHAZIMEカンパニーのお店ばっかり並べることかな。六本木近辺の森ビル状態(笑)。飯屋もコンビニもお土産屋も、全部HAZIMEカンパニーにする。叶う叶わないは別にして、そうしてみたいです(笑)。俗に言う渋谷って渋谷・宇田川町で終わってるんだよね。だけど、井の頭通りを深町交番の方に1km延ばすだけで渋谷の買い物ができるエリアって凄く繋がるんですよ。だから出来るんじゃないかなって思って、真剣に考えてる。まあ、それを実現するまでの過程になると思うけど、音楽的にはプロダクションをやりたいと思ってます。現状、若手のラッパーにデモをもらって「いいな」と思っても引っぱって出してあげられない状態だし。インディーでもいいから、良質な作品を常に出して、最終的にメジャーレーベルに買ってもらえるような、サポートするプロダクションを考えてる。ただ、アーティスト活動してるオレが今やっちゃうと「HAZIMEとこの若手でしょ？」ってなっちゃうから引退してからでもいいんだけど。もうちょっとDJビジネスとか音楽ビジネスの面でサポートしてあげたいってのは思いますね。

#### ■2006年は？

2007年の夏にセカンドアルバムの予定なので、その準備期間になると思います。でも、2006年はドイツワールドカップなので、ドイツの結果次第かな(笑)。「3戦全敗で帰って来ました。この悔しさを音楽に」ってなればいいけど、「何もやる気しないよ、オレ」ってなるかもしれない。まあ、とりあえず2007年のアルバムの準備の為に動きま

すね。前は凄いいメンバーをお願いしたけど、次はもっとフレッシュな人材が欲しいんですよ。だから、地方に行く度にデモをもらったりして探してますね。あとはクラブプレイを2005年よりも更に頑張ります。オレは40歳で引退するって決めてるんですよ。35歳で帯でまわすのをやめて、40歳で完全に引退。自分でも考え過ぎかなとは思いますが。とにかく、いいパーティーをやりたいっていう気持ちはどの過程でも同じだと思うから、それに向かって頑張るだけかな。

#### ■10月に"RADD LOUNGE"をオープンさせましたか？

お店を始めた理由は、基地が欲しかったからかな。昔、STILL DIGGIN'でMURO君が働いていた時にオレらは普通に客で行って、MURO君と知り合いになってレコード教えてもらったり、NYに連れて行ってもらうって一緒に買い物とかして、そこから本場のHIP HOPを学んだりして来たわけですよ。もし、STILL DIGGIN'が無かったらMURO君とも会わなかっただろうし、MURO君に刺激されてなかったら自分で何か行動を起こすってところまで行かなかったと思うし。それだけMURO君との出会いがオレの中で重要だと思ってる、オレはSTILL DIGGIN'みたいなお店になったらいいなって思ってるし、そういう基地が欲しいからオープンしたんだよね。お客さんが来て、ただ洋服を買って帰るっていうんじゃなくて、せっかくオレがやってるんだから、それに付随する何かがあっても楽しいかと思って。例えば、お店に来た子が「HAZIME君あの曲なんすか？」っていうのもいいし、「どうやって曲とか作るんすか？」でもいいし、お店に来てオレや店のスタッフと話して、何か刺激を受けて、自分で行動を起こしてくれればいいかなって。消費するだけがHIP HOPなんじゃなくて、自分でやるのがHIP HOPだから、何かを始めるきっかけになったらいいなって思ってる。自分が経験してきたことを反映させたいですよ。

#### ■最後にメッセージを。

日本のHIP HOPシーンの活性化において、日本のラッパー、アーティストと日本のDJとの関係はもっと密接であるべきだと思うんです。アメリカのレコード会社だったりアーティストがDJにA&Rをやらせたり、エグゼクティブプロデューサーをやらせたりしているけど、ラッパーとDJとの信頼関係があればそのポジションは成り立つと思うし。そういう部分でオレらも日本のラップシーンをサポートしていきたいし、オレら以外の違った角度から見ているリスナーとかクラブに来ている人たちの意見ももっと盛り込まれてもいいかなって思ってるので、そういう部分で10年前とはまた違ったムーヴメントを起こせたらいいですね。あと、来年はドイツワールドカップがあるので、みんな一緒に日本を応援しましょう!!